

令和4年度 学校自己点検・自己評価

君津中央病院附属看護学校

1. はじめに

自己点検・自己評価は、教育評価の一環として位置付けられ、実際の教育が当該の教育目標をどの程度達成したかを見極め、それを次の教育活動へフィードバックする手続きである。評価・結果から再計画・実施・評価を繰り返すことを、循環的・継続的に行い、教育活動の質向上を目指すことであり、自校の維持・発展に繋げることが重要である。

前回、令和2年度に自己点検・自己評価を実施し、5つの課題を抽出し重点目標に掲げて問題解決に取り組んできた。評価カテゴリー（大項目）9領域、「点検」（中項目）67項目、「点検数」（小項目）116項目を設定し令和5年1月から2月に実施した。

2. 自己点検・自己評価の目的

当校の教育の質向上のために、教育活動とその他の学校運営についての評価を行い、学校運営全体の課題を明確にし、組織的・継続的改善を図る。

3. 自己点検・自己評価基準及び点検者

(1) 評価基準

当てはまる・・・3 やや当てはまる・・・2 当てはまらない・・・1 の3段階とした。

(2) 評価者

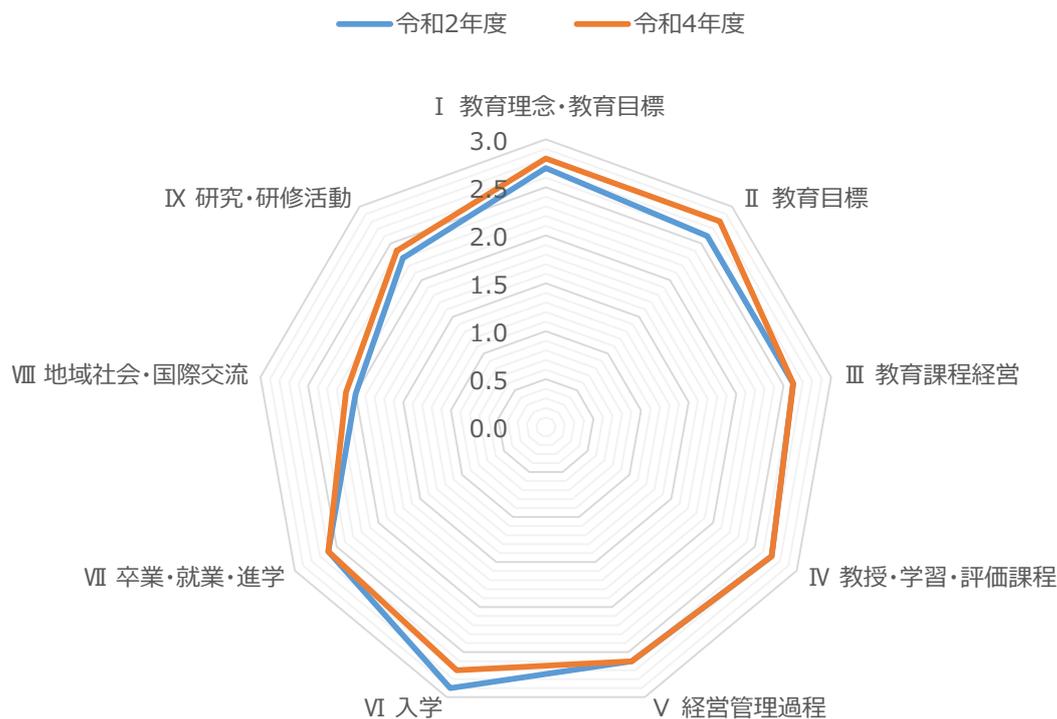
看護教員 13名

4. 自己点検・自己評価結果

(1) 大項目ごとの平均値を前回評価と比較

大項目	令和2年度	令和4年度
I 教育理念・教育目標	2.7	2.8
II 教育目標	2.6	2.8
III 教育課程経営	2.6	2.6
IV 教授・学習・評価課程	2.7	2.7
V 経営管理過程	2.6	2.6
VI 入学	2.9	2.7
VII 卒業・就業・進学	2.6	2.6
VIII 地域社会・国際交流	2.0	2.1
IX 研究・研修活動	2.3	2.4

カテゴリー別平均値



(2) 自己点検・自己評価 評価の概要と課題

今回、点検項目・システム全体を見直した評価項目での実施は4回目である。

前回実施の評価・分析から5つの課題を挙げ、毎年の業務重点目標として課題解決に向けて取り組んだ。

前回と比較し、評価結果が優位なカテゴリーはI 教育理念・教育目的 II 教育目標 VIII 地域社会・国際交流 IX 研究・研修活動の4カテゴリーであった。新カリキュラム作成と取り組み開始となった年度であるためか、I IIについては理解が深まったと考える。VIIIについては2.0から2.1へポイントがアップしたが、中で最も低いポイントである。新型コロナウイルス感染症が5類感染症へ移行したことで活動の再開や国際看護講師に実働経験のある講師を予定している。IXについては研究への取り組みと学会等で発表出来たこと、基礎教育における地域・チーム医療について取り組んだことが評価されたと考える。前回より、評価が下がったカテゴリーはVII 入学であった。学生の入学前学習や入学後の成績を追うことで入学時からの学習への取り組みが重要であることがわかったので、今後、意欲・学力のある学生を獲得する対策が必要である。変わらなかったのはIII 教育課程経営 IV 教授・学習・評価課程 VII 卒業・就業・進学で、平均2.63ポイントであった。

附属看護学校としての強みと使命を果たすため、更に評価の低いカテゴリーに対しては取り組んで行く必要がある。

今回、自己点検・自己評価の目的、意義等を説明したがマニュアルの活用が十分ではなかった。個人を評価するのではなく、学校評価の視点で取り組めるよう評価方法の周知が課題である。

今後の課題

1. 新カリキュラムの運用から結果評価
2. 看護師国家試験全員合格に向けた取り組み
3. 質の高い看護教育の実践
4. 学びやすく・働きやすい学校環境づくり
5. 危機管理マニュアル作成
6. 自己点検・自己評価マニュアルの周知
7. 入学試験要項の見直し